

為替週間展望 = ドル円はもみ合いながら上値を追う展開か

[6月19日からの1週間の展望]

週間高低 (カッコ内は日)		6月12日～6月16日			
	始値	高値	安値	終値	前週比
ドル・円	139.38	141.50(15)	139.01(13)	141.18	+1.78
ユーロ・ドル	1.0750	1.0962(16)	1.0733(12)	1.0946	+0.0197

国内株・金利/米国株・金利		終値		前週末比	
	終値	前週末比	終値	前週末比	
日経平均株価	33,706.08	+1440.91	日本10年債利回り	0.414	-0.013
ダウ平均株価	34,408.06	+531.28	米10年債利回り	3.717	-0.023

<来週の主要経済統計等>

- 19日 英6月ライトムーブ住宅価格
カナダ5月鉱工業製品価格
- 20日 中国最優遇貸出金利 (ローンプライムレート、1年、5年)
日本4月鉱工業生産指数確報値
独5月生産者物価指数
ユーロ圏4月経常収支
米5月住宅着工・許可件数
- 21日 英5月消費者物価指数
英5月小売物価指数、英5月生産者物価指数
カナダ4月小売売上高
パウエルFRB議長議会証言
- 22日 NZ5月貿易収支
スイス銀行(SNB)政策金利
英中銀(BOE)政策金利
米新規失業保険申請件数、米第1四半期経常収支
米5月中古住宅販売件数、米5月景気先行指数
パウエルFRB議長議会証言
- 23日 日本5月消費者物価指数
英5月小売売上高
独6月製造業PMI速報値、独6月非製造業PMI速報値
ユーロ圏6月製造業PMI速報値、ユーロ圏6月非製造業PMI速報値
英6月製造業PMI速報値、英6月非製造業PMI速報値
米6月製造業PMI速報値、米6月サービス業PMI速報値

【前回のレビュー】13日の米消費者物価指数が大きく下振れしない限りは、インフレ警戒感はまだ、利上げ継続姿勢が示される可能性が高く、ドルの堅調な動きにつながりそう。また、日銀金融政策決定会合では金融緩和姿勢の維持が見込まれており、円売りに傾くとみられる。こうした中、ドル円は緩やかに上値を追う展開が見込まれるとした。

【6月のFOMCでは政策金利を据え置き】

6月13～14日に開催された米連邦公開市場委員会(FOMC)では、市場予想の通り、政策金利の誘導目標を5.00～5.25%に据え置いた。声明文では、「追加引き締め度合いは経済データ次第」「金利据え置きは追加データの精査を可能にする」「投票は全会一致」といったことが示された。

米連邦準備制度理事会(FRB)のパウエル議長は記者会見で、「これまでに行った

利上げからすると、政策金利を維持することにより、経済に関する追加の情報や金融政策への影響を判断できる」「ほぼ全員が追加利上げが適切になると判断している」「インフレに対するリスクは上向き」などと述べた。

政策金利の見通し（いわゆるドットチャート）では、2023年末の政策金利見通しを5.625%としており、前回（3月）から0.50%引き上げられた。これで年内にあと2回の利上げが行われる見通しが示されたこととなる。なお、2024年末の政策金利見通しは4.625%となり、前回の4.250%から引き上げられた。

実質国内総生産（GDP）や個人消費支出（PCE）などの見通しは下記の通り。

FOMC経済見通し（）内は3月時点

<実質GDP>

2023年 1.0%（0.4%） 2024年 1.1%（1.2%）

2025年 1.8%（1.9%）

<失業率>

2023年 4.1%（4.5%） 2024年 4.5%（4.6%）

2025年 4.5%（4.6%）

<PCE>

2023年 3.2%（3.3%） 2024年 2.5%（2.5%）

2025年 2.1%（2.1%）

<PCEコア>

2023年 3.9%（3.6%） 2024年 2.6%（2.6%）

2025年 2.2%（2.1%）

今年のPCEコアが前回の3.6%から3.9%に引き上げられており、FRBのインフレ警戒の根強さを感じさせる内容となった。今後の利上げに関しては「データ次第」とパウエル議長も述べており、今後インフレ率の鈍化が見られないようだと、FRBによる利上げ継続姿勢は一段と長期化する可能性もある。

CME FEDウォッチでは、7月のFOMCでの政策金利の据え置き確率が28%前後、0.25%の利上げ確率は78%前後となっている。経済データ次第ながらも、市場では7月のFOMCでの利上げを予想する向きが多い。

一方で、6月15～16日に開催された日銀金融政策決定会合では、金融政策の現状維持を決定した。大規模緩和策は当面は継続されるとみられる。植田日銀総裁は記者会見で、「経済情勢などに応じ機動的に対応しつつ粘り強く緩和継続」「賃金上昇ともなう2%物価目標の持続的・安定的実現を目指す」「物価安定目標の達成にはなお時間がかかる」「先行きの日本経済、緩やかに回復していくとみられる」「わが国の景気は資源高の影響など受けつつも持ち直している」「物価の下がり方は思っていたよりもやや遅い」「物価見通し、7月展望レポートに向けて丹念に精査する」などと述べた。大規模緩和策の維持の発表後は対主要通貨で円売りの流れになっている。

FRBによる利上げ継続姿勢はドルの下支え要因となるが、欧州中央銀行（ECB）が利上げ継続に前向きで、ドルは対ユーロでの上値の重さから大きく上値を伸ばしにくい。また、日銀による緩和策の継続は円売り要因となる。一段の円安進行は日本の金融当局によるドル売り円買い介入が警戒されて上値を抑える可能性が出てくる。こうした中、ドル円はもみ合いながら上値を追う展開となりそうだ。ドル円の目先の予想レンジは、138.75～143.50円。

上記以外の今後の日米の経済指標やイベントとしては、20日に日本4月鉱工業生産指数確報値、米5月住宅着工・許可件数、22日に米新規失業保険申請件数、米第1四半期経常収支、米5月中古住宅販売件数、米5月景気先行指数、23日に日本5月消費者物価指数、米6月製造業PMI速報値、米6月サービス業PMI速報値などがある。

【ユーロドルは堅調な流れが継続か】

15日の欧州中央銀行（ECB）理事会では、市場予想の通り、政策金利を0.25%引き上げて4.00%とした。利上げは8会合連続となる。理事会後の記者会見でラガルド総裁は「利上げは終わっていない」「7月も利上げを継続する可能性が高い」

「利上げの一時休止や停止に関して議論していない」などと述べた。

E C B スタッフ予測では、コアインフレ率を2023年5.1%、2024年3.0%と予想を引き上げた。また、パンデミック緊急購入プログラム（PEPP）の再投資は少なくとも2024年末まで継続するとしている。

インフレ率は低下傾向にあるものの、依然として高水準にある。このため、7月のECB理事会でも、インフレ抑制のために0.25%の利上げに動くとの見方が見込まれる。ECBスタッフ予測ではコアインフレ率が引き上げられており、利上げ継続観測を背景にユーロドルは底堅い動きとなりそうだ。ユーロドルの目先の予想レンジは、1.0750～1.1100ドル。

日米以外の今後の経済指標やイベントは、19日に英6月ライトムーブ住宅価格、20日に中国最優遇貸出金利（ローンプライムレート、1年、5年）、独5月生産者物価指数、21日に英5月消費者物価指数、英5月生産者物価指数、22日にNZ5月貿易収支、スイス銀行（SNB）政策金利、英中銀（BOE）政策金利、23日に英5月小売売上高、独6月製造業PMI速報値、独6月非製造業PMI速報値、ユーロ圏6月製造業PMI速報値、ユーロ圏6月非製造業PMI速報値、英6月製造業PMI速報値、英6月非製造業PMI速報値などがある。

MINKABU PRESS 佐藤昌彦

※投資や売買についての判断は自己責任でお願いします。

<免責事項>

本レポートは情報の提供のみを目的としています。投資に関する最終判断はご自身の責任においておこなわれるようお願いいたします。また本レポートに掲載している情報の正確性については万全を期しておりますが、人為的、機械的その他何らかの理由により誤りがある可能性があり、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドは、利用者がこれらの情報を用いて行う判断の一切について責任を負うものではありません。また、株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイドが提供するすべての情報について、許可なく転用・転載等することを固く禁じます。

<著作権について>

本レポートの著作権は、原則として当社(株式会社ミンカブ・ジ・インフォノイド)が保有しており、著作権法、その他の法律および条約により保護されています。本レポートご利用のお客様は、私的使用目的の複製、引用等著作権法上認められている範囲を除き、当社およびその他著作権者の許諾なく、これらの著作物を翻案、公衆送信、営利を目的とする使用等いかなる目的、態様においても利用することはできません。